

考察

- ・ 平成20年度高校3年生は定期予防接種対象者であり、4～6月は重点的な接種勧奨期間と位置づけられているが、7月時点の調査であるにもかかわらず、対象であることを知らなかった生徒が半数以上おり、情報の周知徹底が必要と考える。
- ・ 対象者の麻疹あるいは麻疹含有ワクチンに対する知識は十分とは言えず、学校における教育啓発が望まれるとともに、生徒自らもはしかの怖さを伝える必要があると考えているものが多かった。
- ・ 調査時点で予防接種未接種麻疹未罹患者が存在し、接種歴・罹患歴不明の者も含まれていることから、麻疹が流行している現在、接種不適合者に該当する者は除き、できる限り早く予防接種を受けることが望ましい。
- ・ 本調査により、麻疹の知識と理解が深まったことがうかがわれ、更に規模を拡大した調査により、麻疹に対する知識の普及に繋がるものと期待された。
- ・ 本調査後の予防接種状況を調査し、本調査が果たした役割を考察し、麻疹についての正しい情報を高校生に伝えるためには、学校教育の中に取り入れる必要があると思われた。
- ・ メディアの協力は不可欠であり、高校生の期待も大きかった。
- ・ 学校の果たす役割が大きいと考えられた。

調査協力

- ・ 国立感染症研究所感染症情報センター
谷口無我
山本明史